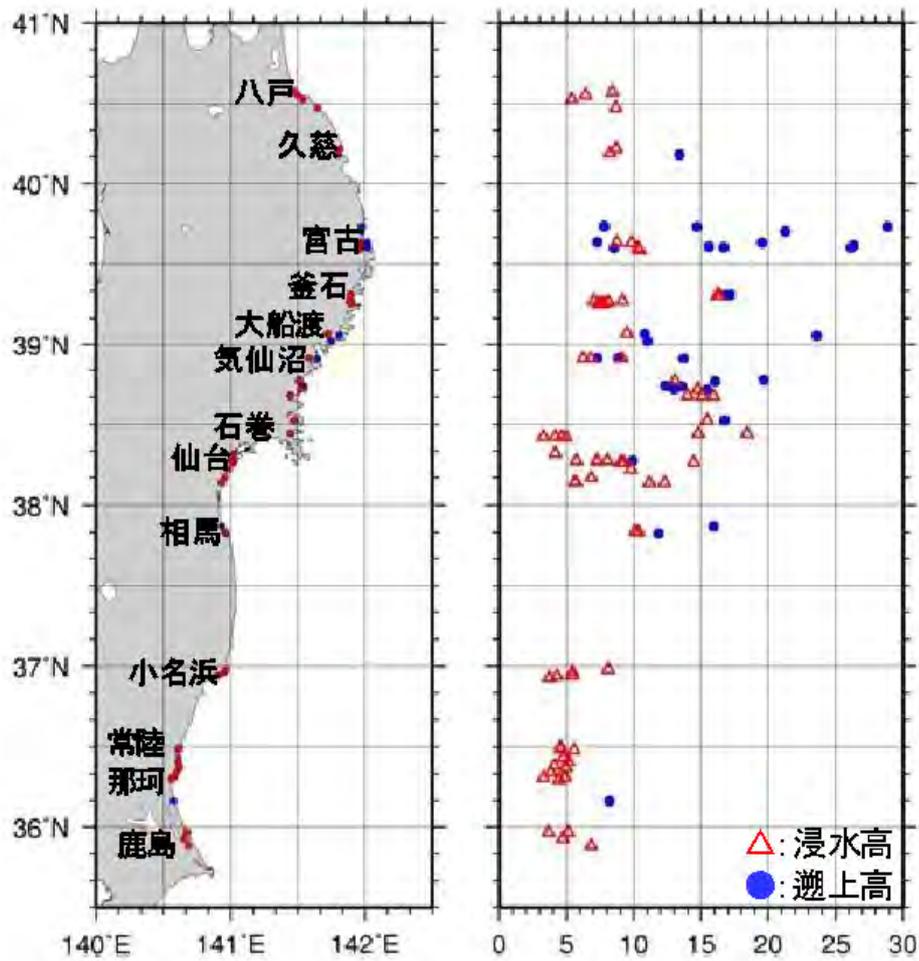


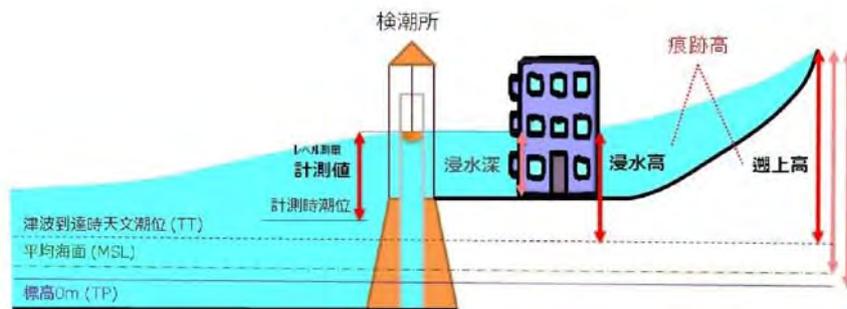
また、土木学会東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループが現地調査から得た津波の浸水高や遡上高をまとめたものを図 2.23 に示す。



(引用：土木学会東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ)

図 2.23 津波の浸水高、遡上高

<参考>



(引用：土木学会東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ)

津波は、62 市町村計 561km²で被害があったとされており、広範囲に及ぶものであった。津波の浸水範囲を図 2.24 に示す。

津波浸水範囲は、地形別にみると以下の状況であった。一般に津波は河川に沿って陸地を遡上するため、河川に隣接する地域への影響が大きく、水道施設では取水施設への影響を留意する必要がある。

<地形別にみた津波の浸水状況>

○リアス式海岸（岩手県および宮城県北部）

リアス式海岸部は海岸近くまで山地が迫っているため、津波浸水範囲（海岸からの距離で示す）は、河川隣接部以外では最大で 1km 程度であるが、河川隣接部では河川に沿って津波が遡上するため、河川にもよるが 2km を超える場所もあり、最長の陸前高田市では 5～6km に達している。

○平野（宮城県南部）

平野部は地盤が低いため、津波浸水範囲は河川隣接部以外では 4～5km に達し、さらに河川隣接部では河川に沿って津波が遡上するため、最長 8km に達している。

○山麓丘陵・台地と低平地（福島県）

山麓丘陵・台地と低平地が混在している地域では、河川と地盤の低い低平地を津波が遡上し、津波浸水範囲は最長で 3～4km に達している。



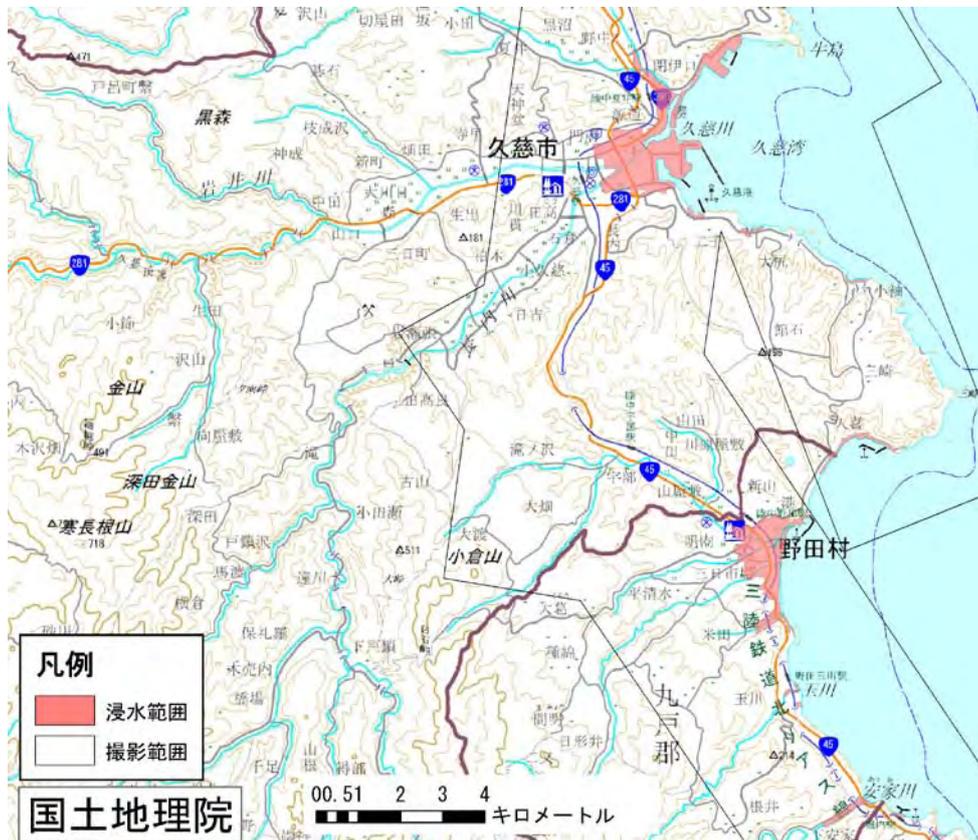
(引用：日本地理学会 津波被災マップ)

図 2.24 津波の浸水範囲

以降に主要な地域の津波浸水状況を北部より順に示す。

1) 岩手県久慈市、野田村付近の状況

三陸リアス式海岸の北端部に位置する地区で、その数少ない平野部に浸水している。津波の高さは久慈市で8m前後であったと報告されている。

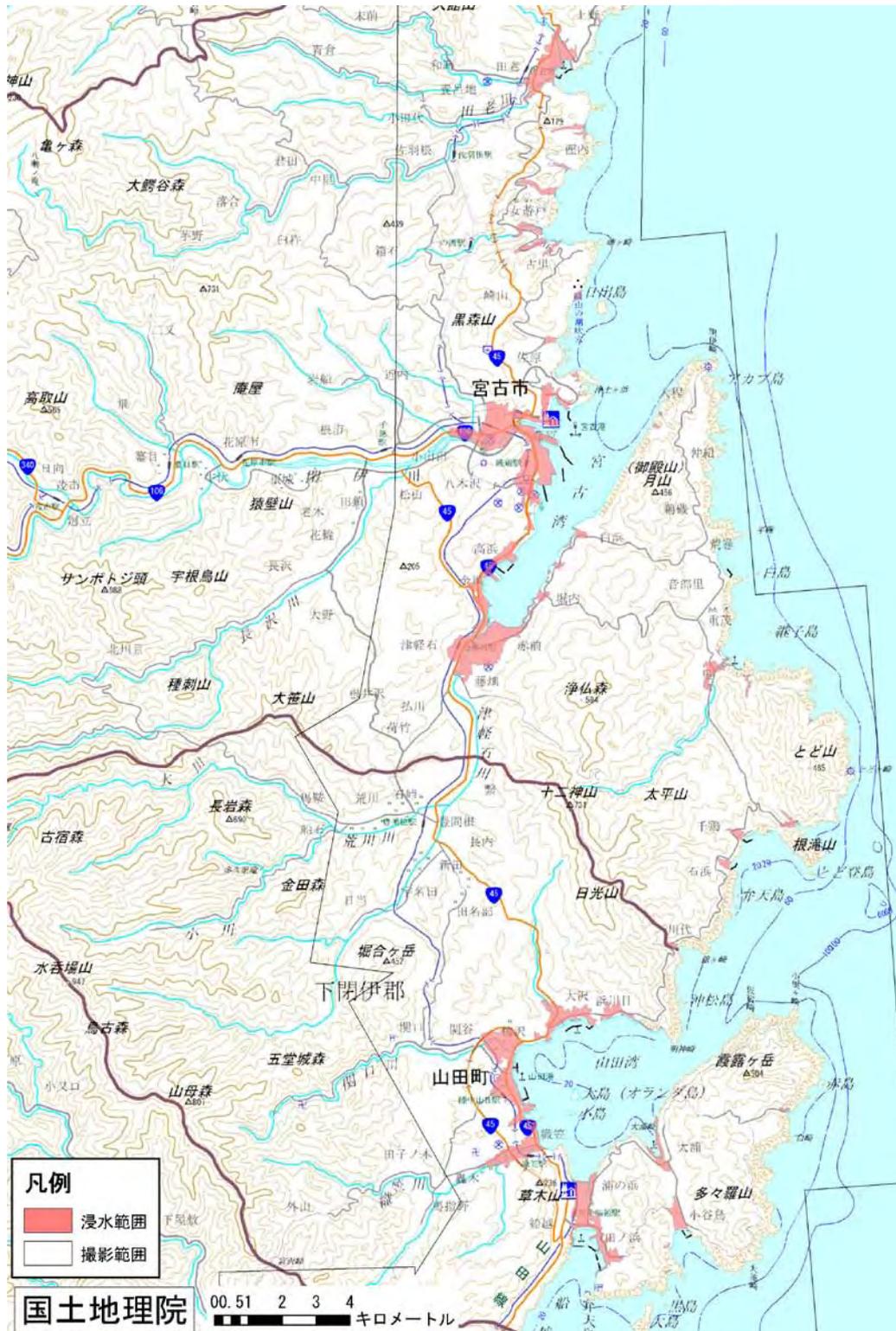


(引用：国土地理院：平成23年(2011年)東日本大震災に関する情報提供)

図 2.25 岩手県久慈市、野田村付近の津波浸水状況

2) 岩手県宮古市、山田町付近の状況

典型的なりアス式海岸の地形で、津波の高さは宮古市で9m前後であったと報告されている。



(引用：国土地理院：平成23年(2011年)東日本大震災に関する情報提供)

図 2.26 岩手県宮古市、山田町付近の津波浸水状況

3) 岩手県大槌町、釜石市付近の状況

典型的なリアス式海岸の地形で、津波の高さは釜石市で9m前後であったと報告されている。

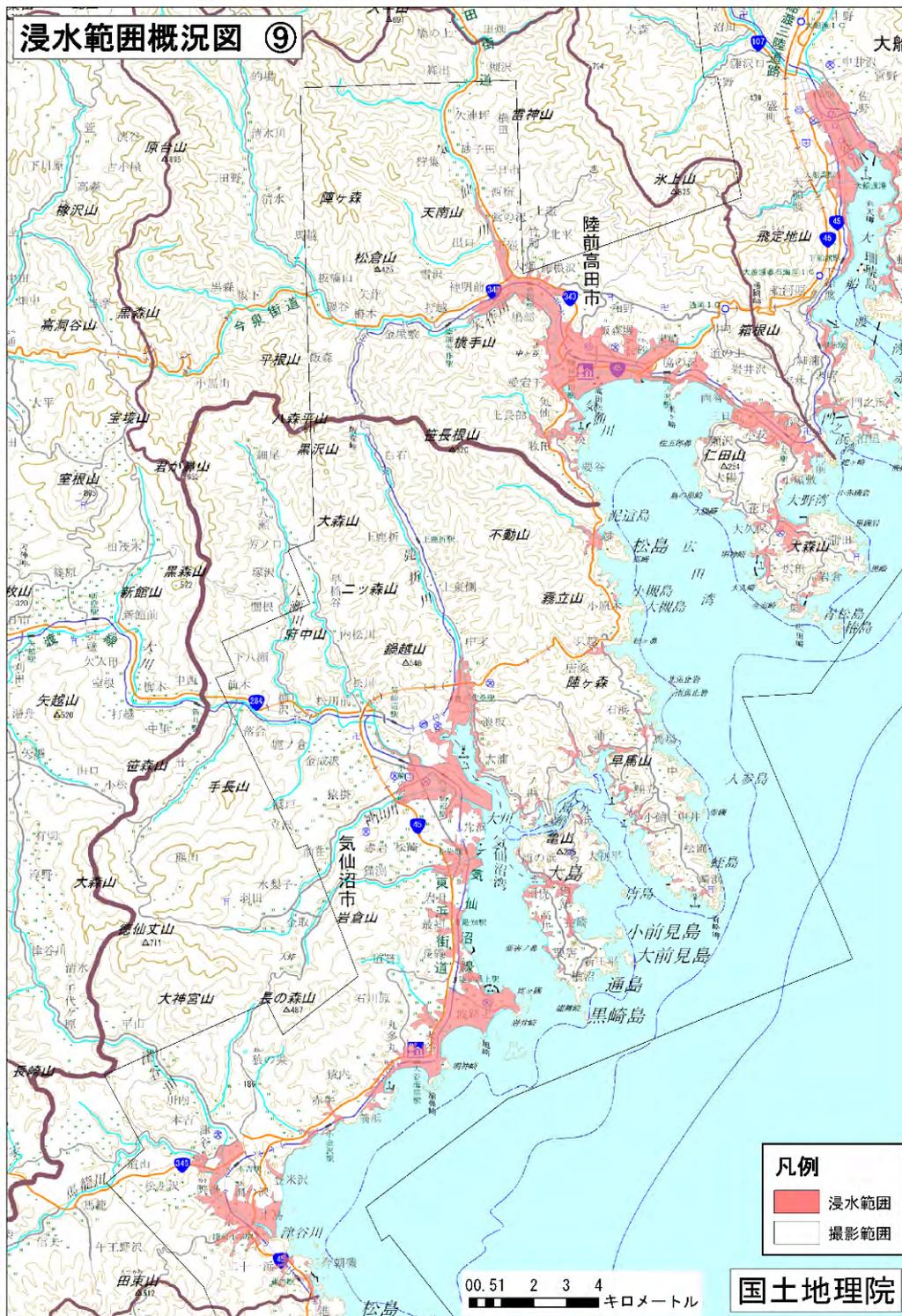


(引用：国土地理院：平成23年(2011年)東日本大震災に関する情報提供)

図 2.27 岩手県大槌町、釜石市付近の津波浸水状況

4) 岩手県大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市付近の状況

典型的なりアス式海岸の地形で、津波の高さは大船渡市で、16m～17m 前後であったと報告されている。



(引用：国土地理院：平成23年(2011年)東日本大震災に関する情報提供)

図 2.28 岩手県大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市付近の津波浸水状況

5) 宮城県南三陸町、女川町、石巻市付近の状況

典型的なリアス式海岸および一部平野を有する地形で、津波の高さは女川町で15m前後、石巻市で8m前後であったと報告されている。

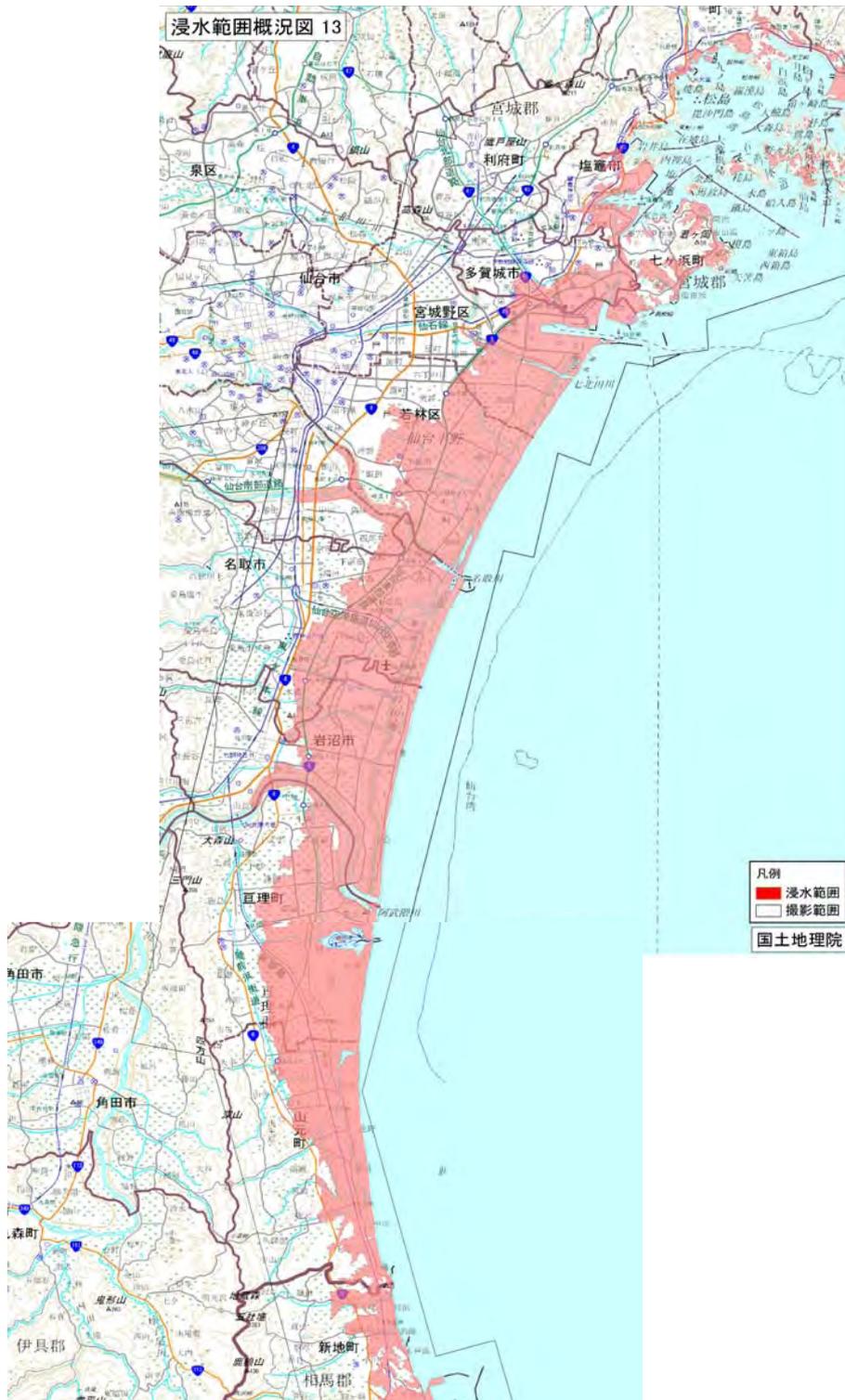


(引用：国土地理院：平成23年(2011年)東日本大震災に関する情報提供)

図 2.29 宮城県南三陸町、女川町、石巻市付近の津波浸水状況

6) 宮城県仙台市、塩竈市、七ヶ浜町付近の状況

平野を有する地形で、津波の高さは仙台市で 7~12m、七ヶ浜町で 6m 前後、塩竈市で 4m 前後であったと報告されている。



(引用：国土地理院：平成 23 年 (2011 年) 東日本大震災に関する情報提供)

図 2.30 宮城県仙台市、塩竈市、七ヶ浜町付近の津波浸水状況

7) 福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町付近の状況

山麓丘陵・台地と低平地を有する地形で、津波の高さは相馬市で9m前後、南相馬市で12m前後、浪江町、双葉町で16m前後、大熊町で12m前後であったと報告されている。



(引用：国土地理院：平成23年(2011年)東日本大震災に関する情報提供)

図 2.31 福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町付近の津波浸水状況